

---

# モノクロームの唄

鈴虫カナタ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

モノクロームの唄

### 【Nコード】

N 6 1 2 4 A

### 【作者名】

鈴虫力ナタ

### 【あらすじ】

少女・円はちよつと裕福な家に生まれただけの、平凡な女子高生。しかしある日突然、その日はやってきた。

## \* 1 \* 円という少女

昔から、その扉は開けたことが無かった。気にならないと言われれば嘘になるが、忌まわしい過去の残るその場所は幼い頃の私には澱んで見えた。

コレから先も私はあの場所には行かない。∴ そう思っていた。

- - アイツが来るまで。

私の家は旧家で地方では有名な家柄だったから、暮らしていく事に特に苦をしたことは無い。学問もスポーツもそれなりにこなしていれば怒られるような事は無かったし、やることをやれば欲しい物は買って貰えた。

友人にも恵まれて楽しい学校生活を送っていたし、門限も特に定められていなかった。

申し分ない、毎日だ。

ただ、私には一つ引きずっている過去があり、その日以来、視界は膜を掛けられたかのようにボーっとぼやけている。

理由は解らないけれど、精神的なものだろうとこの10年間気にしないようにしてきた。慣れとは怖いもので、今では極当たり前の事として受け入れている。

「<sup>まどか</sup>円、また明日ね！」

「うん、友里恵も気をつけて帰ってー！バイバイ！」

友人の友里恵と別れ、円は曲がり角を曲がった。先程から延々続く見慣れた塀を横目に軽い足取りで歩を進める。初夏の近いこの季節は日が長くなり、夕方6時だと言っのにまだ明るい。

「時間感覚が一寸狂いそう」

携帯で時刻を確認すると手早くスカートのポケットにいれ、漸くついた門の中に入った。

其処から玄関迄は、まだまだ遠い…。

広大な敷地内に入っていく姿を見ていたものがいた。赤く光る双眸はじつと少女の後ろ姿を食い入るように見つめた。

「- やつと戻ってこれた

眩くような言葉が漏れ、それは誰に届くでもなく空気に溶けて消えた。

「ただいまー、咲さん」

「お帰りのさいませ、円様」

深く下げられた頭を上げると現れた優しい表情が円の気持ちをホッ

とさせる。

この屋敷の家事を一手に引き受けている咲は20代後半の女性で優しく穏やかな雰囲気です。母を思わせる。円にはある事情で母がいない為に咲の事を本物の母のように慕っていた。

「円様、今日のお夕食は何にしましょう？」

「ん…そうね、私今日は和食が食べたいな。」

おかしいと思われるかもしれないが、円の家では毎日自分の好きなものを自分の分だけつくってもらえる。なので父はフレンチ、円は和食などと言うこともざらではない。

円の希望を聞くと咲は笑顔を見せて、調理場へといなくなった。暫く背中を見送っていたが、宿題を思い出し渋い顔で二階への階段を登り始める。

「さあーて…古典の宿題さつさと済ませなきゃ」

長い廊下を部屋へと向かい、独り言を止めない円の声は、虚しく響いた。

「あーついたついた。学校かつてのこの家」

最奥の扉を開こうと手を伸ばすと鋭い痛みを指先に感じ、思わず手を引く。

「やだ、この季節に静電気…？いたいし…」

もー最悪。そんな口癖をつい零し、再度手をかけると取っ手を下げ

思い切り引いた。ギィ、と年期の入った音を立て開いた部屋は見慣れた己自身の部屋…。

「え…？誰…？」

見知らぬ人影が一つ、窓から入る夕日を受け、此方に背を向けて立っていた。

**\* 1 \*    円という少女（後書き）**

細々と始めた拙い文章ですが、ゆっくり進めていきたいと思っています。  
これからよろしくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6124a/>

---

モノクロームの唄

2010年10月9日07時05分発行